

主催事業紹介「小林カレッジ」

第5回 10月5日(土) 江戸時代の街道・宿場のこぼれ話 参加者17名

本日は、東海道など全国各地の旧街道を7年間にわたって約5千キロを歩き「江戸時代の街道、宿場、民家」というガイドブックを出されている武田久義先生から「街道こぼれ話～歴史街道ウォーキングの勧め～」と題してお話いただきました。



街道については、関所・一里塚・並木・道標・常夜灯・渡し場・峠と茶屋・立場など、また宿場については宿場の概要から番所・本陣・脇本陣・旅籠屋・商家・町堀・高札場についてなどお話しいただきました。また、講義はクイズ形式で進められ講義の途中に9問のクイズを出し、受講者が挙手等で答えるなど和やかな雰囲気が進められました。

「街道こぼれ話～歴史街道ウォーキングの勧め～」とあるように先生が実際に街道を歩いた時のこぼれ話では、中山道の碓氷峠で一人でサルの群れと遭遇しボス猿と目を合わさないようヒヤヒヤしながら通り過ぎたことなどや、また街道ウォーキングのお勧めとしては、ひなびた江戸時代の雰囲気が残る北国街道(長野・新潟県)・

往時の峠越えの苦労がしのばれる会津中街道・大峠(1468m、栃木・福島県)というお話をいただき受講者のみなさんも江戸時代の街道を行き交う人々に思いを馳せ、街道ウォーキングというものに興味を湧いているようでした。

